

私の授業を ブラッシュアップ



昨年度調査で明らかになった**2つの課題**に対する授業改善は進んだのか？

知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得すること

授業改善の視点 **知識・技能を活用する場면을授業や生活場面に意図的に位置付ける**

資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現すること

授業改善の視点 **資料や友達の発言の意図などについて、自分の言葉で説明する時間をとる**

香川県教育委員会では、昨年度（R7年度）の全国学力・学習状況調査の教科に関する調査結果を分析し、上の2つの課題と授業改善の視点を示すとともに、様々な研修の機会を通して授業改善を呼びかけてきました。今年度の調査結果はどうだったのでしょうか？

R8年度全国学力・学習状況調査の結果は…

教科に関する調査結果は 全国をやや下回る

		小学校		中学校			
教科		平均正答率（％）				教科	平均 IRT スコア 英語 3 技能
		国語	算数	国語	数学		
香川（公立）		60	54	62	57	香川 （公立）	486
全国（公立）		61 (60.9)	56 (56.4)	64 (63.9)	57 (57.0)	全国 （公立）	499
全国との差		-1	-2	-2	0		
知識・ 技能	香川	60.2	56.7	62.8	62.9	IRT バンド	IRT スコア範囲
	全国	62.0	60.1	64.2	63.0	1	～329
	全国との 差	-1.8	-3.4	-1.4	-0.1	2	330～443
思考・ 判断・ 表現	香川	60.2	45.5	61.5	38.2	3	444～558
	全国	60.1	45.4	63.7	39.1	4	559～673
	全国との 差	0.1	0.1	-2.2	-0.9	5	674～

小学校国語、中学校数学、英語は全国平均とおおむね同等、小学校算数、中学校国語は全国平均を下回っている。

知識・技能の習得に課題!?

対話を通して 考えの深まりを実感

「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている」と肯定的に回答した児童生徒は8割を超える。

学びの活用を実感している 児童生徒は全国を下回る

「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりできると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は7割を超えるが、小中ともに全国平均を下回っている。

子どもたちの「つまずき」はどこに？
昨年度の課題と関連させて分析し、
授業改善の視点を提案します

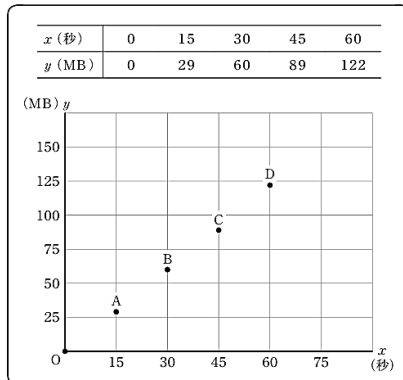
既習の知識・技能を活用して、解決方法を数学的に説明することに課題

R8全国学力・学習状況調査 中学校 数学 7 (2)

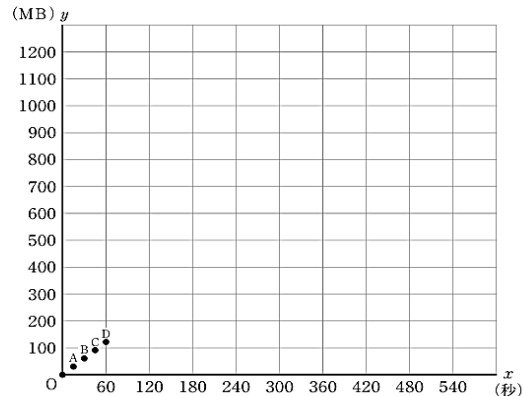
7 光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000MB までにすることになっています。そこで、動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ撮り方で時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間が x 秒のときのデータ量を y MBとして、次のように表をまとめ、下のグラフに表しました。

(2)光希さんは、1000MB のデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの調べた結果を下のグラフに表しました。

調べた結果



動画の時間とデータ量のグラフ



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点 O から点 D までの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が 1000MB になるときの動画の時間はおおよそ何秒になるかを求める方法を、 x 座標や y 座標、 x の値や y の値など、 x や y を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

生徒の反応率

解答類型			反応率 (%)	
			香川	全国
1	グラフ	直線のグラフを利用し、 y 座標が 1000 の時の x 座標を読むことを記述している	◎ 7.5	◎ 9.4
2		「直線」や「 x 座標」の記述がないが、条件を満たしている	○ 2.6	○ 2.5
3~5		記述が不十分	9.3	10.1
6	式	比例の式に $y = 1000$ を代入して、 x の値を求めている	◎ 7.4	◎ 6.6
7		「比例」や「代入」などの記述がないが、条件を満たしている	○ 4.5	○ 4.0
8~9		記述が不十分	4.6	4.7
10	表や数値	表や数値を用いて割合を求め、 y の値が 1000 の時の時間を算出している	◎ 4.0	◎ 3.8
11		「割合」や「時間」についての記述が不十分だが、条件を満たしている	○ 6.7	○ 7.6
12~14		記述が不十分	6.6	6.8
99		上記以外の解答	5.3	5.0
0		無解答	41.4	39.6

※反応率…全体に占める各解答類型に対する児童生徒数の割合
 ※正答「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答
 「○」…問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

正答率 (%)		無解答率 (%)	
香川	全国	香川	全国
32.8	33.9	41.4	39.6

出題の趣旨

データ量が 1000MB になるときの動画のおよその時間を求める方法の説明が求められています。比例の知識を活用し、事象を数学的に解釈して解決方法を導き出す力が必要です。

分析と改善のポイント

4 割が無解答
 解決過程を説明することへの
 苦手意識が高い



正答率は 32.8%と低く、全国を 1.1pt 下回っています。特に無解答率が4割を超えていることが大きな課題です。これは答えの値を求めるのではなく、値を求める「方法」を問われていることが、無解答につながっていると考えられます。

授業では、なぜその答えになるのか、表や式、グラフをどのように用いたのか、数学的な意味をしっかりと理解し、自分の考えを説明できるようにしていくことが重要です。

子どものつまずきはココ！

知識を活用するための本質的な理解の不足

言葉や公式などを丸暗記するにとどまり、その知識が何を意味しているのかという本質的な理解まで深まっていない点が大きな課題となっています。

そのため、答えに至る道筋や理由を自分の言葉で説明する場面や、いつもと違う形式で問われた場合に、覚えた知識を柔軟に使うことができていない傾向が見られます。

何となく分かるけれど説明するのは難しいな。



pick up !

語句の意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える問題

中国語 4-1 【問題の概要】
線部「ほうふつとさせる」を正確に理解するために、「ほうふつ」を国語辞典で調べました。「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を、【国語辞典に載っていた意味】を参考にして、どれか一つを6段落の中から抜き出さないで。

ほうふつ【彷彿】①はつきりと脳裏に思い浮かぶこと。よく似ていること。②おぼろげなさま。はつきりしないさま。

解答類型		反応率 (%)	
		香川	全国
1	次のいずれかのように解答 「ありありと映し出している」、「心に思い描く」 「包括的に含んだイメージ」	◎ 13.6	◎ 13.9
2	1の前後の語句を含む、または一部のみを抜き出した解答	○ 18.8	○ 21.3
3	上記1、2以外の箇所を抜き出した解答	39.4	39.7
99	上記以外の解答	6.1	5.4
0	無解答	22.0	19.8

出題の趣旨

語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える問題です。

分析と改善のポイント 活用の仕方を考えながら知識を習得する

「ほうふつとさせる」の文脈上の意味を捉えて同じような表現を見つけることができず、約4割の生徒が「ありありと」など言葉の一部分を捉えるにとどまっています。語句の意味の確認だけでなく、その言葉が文章の中でどのような役割を果たしているのか、前後の語句の関係を考えることが、語彙を豊かにすることにつながります。

pick up !

知識の意味を問う問題

小 算数 1(3)

1 cm³の立方体が36個あります。36個をすべて使って、高さが4cmの直方体をつくりました。この直方体の体積は何cm³ですか。

出題の趣旨

体積の意味について理解しているかどうかをみる問題です。

分析と改善のポイント 知識の本質的な意味を理解させる

○cm³は1 cm³が○個集まったものという体積の意味の理解が不十分であり、問題文に出てきた数値を使って÷4や×4などの計算をした誤答が多くなっています。授業では、実物に触れながら立体の体積の概念をしっかりと理解させ、様々な場面で繰り返し使うことで知識の定着を図ることが大切です。

解答類型		反応率 (%)	
		香川	全国
1	36	◎ 34.4	◎ 40.1
2	144	20.9	20.0
3	9	19.2	14.3
4	4	1.7	1.4
5	上記以外の4の倍数	15.3	15.1
99	上記以外の解答	6.1	4.9
0	無解答	2.4	4.2

pick up !

基本的な知識・技能を問う問題

基本的な公式を用いた計算や、漢字の習得に課題

小 算数 1(1)

1辺が8cmの立方体の体積が何cm³かを求める式を書く。

正答率 61.9% 全国との差 -10.8pt

小 国語 2三イ

問題文の下線部を、漢字を使って書き直す。(ふしぎ)

正答率 27.2% 全国との差 -18.0pt

自分の考えを書く力は身に付いている

R8 全国学力・学習状況調査 小学校 国語 3 三(2)

問題の概要

林さんは、「文章」を読んで、自分の考えをまとめるために、同じ文章を読んだ小川さんと話し合うことにしました。次の【話し合いの様子の一部】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

林さん 私「苦手」と「嫌い」という題名の文章が心に残ったんだ。この文章の中の（ ） 部アを示しながら この部分が特に考えさせられたんだ。

小川さん どんなことを考えたの。

林さん この部分のあとにいろいろな事例が出てくるでしょ。これらの事例を読んだら、自分にも同じようなことがあると、はっとしたんだ。例えば、自分に置きかえると、

小川さん なるほど。文章と自分の経験を結び付けて考えたんだね。

林さん そうなんだ。この文章を読んで、これまでの自分にはない考えだったけれど、なるほどと思ったよ。小川さんは、どんなことを考えたの。

小川さん ぼくは、この文章を読んで、筆者が書いていることと少しちがうことを考えたんだ。「苦手だからどうしても嫌い」ということもあるだろうし、「得意だけれど嫌い」ということもあるんじゃないかなと思うんだけど、どう思う。

（話し合いが続く）

(2) 林さんは、小川さんと話し合ったことをもとに、改めて【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめることにしました。あなたなら、【文章】を読んで考えたことをどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましよう。

〈条件〉

- 【文章】を読んで、考えたことを書くこと。
- 【文章】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- あなたの経験を書くこと。

出題の趣旨

【文章】を読んで、文章から言葉や文を取り上げ、自分の経験と結び付けてまとめることが求められています。筆者の思いや考えを理解して言葉や文章を取り上げるとともに、自分の経験との関係を明確にして、さらに自分の考えをまとめ表現する力が必要となります。

児童の反応率

解答類型		反応率(%)	
		香川	全国
1	すべての条件を満たしている	◎ 80.5	◎ 76.4
2	自分の経験を書いている	4.7	4.7
3	【文章】を読んで考えたことを書いている	0.0	0.0
4	【文章】の言葉や文を取り上げて書いているがそれ以外が書かれていない	1.5	1.2
99	上記以外の解答	2.1	2.1
0	無解答	11.2	15.6

※反応率…全体に占める各解答類型に対する児童生徒数の割合
※正答「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

分析と改善のポイント

考えを書く力に一定の成果



正答率は80.5%と全国平均を4.1pt上回る高水準で、問題の意図を読み取り、自分の体験と考えを結びつけて記述する力が多くの児童に定着しています。これは、日常的な指導において「書く活動」を取り入れ、きめ細やかな指導・支援を重ねてきた成果が表れたものだと言えます。

資料を読み取ったり、表現したりする力は一度だけの活動では身に付くことは難しいため、関連する題材や単元の中で繰り返し練習することが大切です。

子どものつまずきはココ！

情報や条件が複雑になった場合に、考えを整理できない

必要な情報を自分で選び、整理して、自分の言葉で組み立て直す力に課題があります。

- ①「問題の意図」を正しく捉える
- ②「資料」から必要な情報を特定する
- ③「自分の考えや根拠」と結び付けて再構築する

たくさんの資料から
必要な情報を見つけ
るのは難しいな。



このように問題解決までの手順が増えたり、考える内容が複雑になったりすると、情報の処理が追いつかず、表現することが難しくなっています。

pick up !

目的に応じて必要な情報を見つけ、結び付けて考える問題

小 国語 3(三)1
【話し合いの様子の一部】の口に入る内容として最も適切なものを選びなさい。
1 持久走のタイムは速いけれど、苦しいのは嫌
2 スピーチが苦手だし、好きになれそうにもない
3 上手ではないけれど、絵をかくのは楽しい
4 歌うことが大好きで、人前で歌うのも気持ちがいい

解答類型		反応率 (%)	
		香川	全国
1	1	26.8	23.7
2	2	17.9	14.3
3	3	◎ 49.4	◎ 55.5
4	4	3.4	3.0
99	上記以外の解答	0.3	0.2
0	無解答	2.2	3.3

出題の趣旨

目的に応じて、必要な情報を見つけることができるかどうかをみる問題です。

分析と改善のポイント 自分の経験に置き換えて考える視点をもたせる

誤答は選択肢1が多く、筆者の意図をなんとなく捉えてはいるものの、「苦手でも好き」という言葉を解釈して、文章に合う内容と結び付けることができていない姿がうかがえます。

授業では、筆者の示す例を自分の経験に置き換えて考える視点をもたせることで、筆者のものの見方や感じ方を理解することにつながります。

pick up !

示された条件に基づいて情報を整理し、筋道を立てて表現する問題

小 算数 1(4)

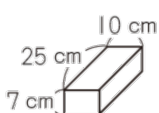
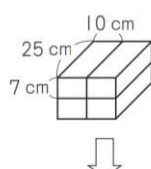


図2

A社の送料

3辺の長さの合計	送料
60 cm 以下	920 円
60 cm より大きく 80 cm 以下	1210 円
80 cm より大きく 100 cm 以下	1510 円



直方体イの送料は何円ですか。

直方体イの送料の求め方を

・3辺のそれぞれの長さ(縦の長さ、横の長さ、高さ)

・3辺の長さの合計

が分かるようにして、数や言葉を使って書きましょう。

また、送料が何円になるのかも書きましょう。

出題の趣旨

図形を構成する要素に着目して3つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題です。

分析と改善のポイント

条件に応じて情報を再構築する経験を

正答である「920円」を導き出す過程を正しく説明することに課題が見られます。直方体イの3辺の長さを図2の直方体から見いだせず、元の箱の長さをそのまま使ってしまった児童が一定数いることがうかがえます。

授業では、図形を構成する要素に着目して考察する経験が重要です。その上で、条件(目的)に応じた表現になっているか子ども自身が吟味し見直す機会を設けていきましょう。

解答類型		反応率 (%)	
		香川	全国
1	3辺の長さ合計を書いている	◎ 43.1	◎ 45.2
2	3辺の長さ又は合計を書いている	4.9	6.2
3	図2の直方体の長さや合計を書いている	10.9	7.6
4	1~3以外、無解答	3.7	5.0
5	3辺の長さ合計、またはどちらかを 書いている	5.5	5.6
6	図2の直方体の長さや合計を書いている	18.5	13.6
7	どちらも4箱で送料が同じであることを書いている	1.7	1.5
99	上記以外の解答	8.2	9.4
0	無解答	3.6	5.8

学んだ知識を活用する授業へ

知識の本質的な理解を目指す

なるほど。〇〇となるのは
～という仕組みが関係してい
るんだね。

前に習った〇〇とつなが
って・・・という特徴があるん
だね。



単なる暗記で終わらせず、「なぜそうなるのか」を理解することが、生きて働く知識・技能の習得につながります。

これまでに学んだことと結び付けて考えたり、実際に操作や体験をしたりする活動を取り入れ、物事の意味や仕組みを確実に捉えられるようにします。さらに、知識の本質に気付くことができるように、子どもが自分の言葉で説明する機会も作っていきましょう。

【発問例】

「～となるのは、どうしてですか？」
「友達が納得できるように説明してみましょう。」

学んだ知識・技能を活用する場面を設ける

この問題を解決するには、
前に勉強した〇〇が使
えそうだね。

前に勉強したとき～したら
解決できたから。



学んだ知識は、様々な場面で試行錯誤しながら活用することで確実に定着します。

そのため、一度きりで終わらせず、単元や関連する授業の中で、子どもが別の場面でも引き出して使う機会を意図的に設定していきましょう。

また、その活用を支える土台として、基礎的な知識・技能をしっかり習熟する時間を確保することも大切です。

【発問例】

「この問題を解決するには、どんな方法がありますか？」
「～の方法が生かせると思うのはなぜですか？」

授業事例

単元を通して、活用場面を意識した知識・技能の習得を

小学校5年 理科 単元名「魚のたんじょう」

目標	動物の発生や成長、生命の連続性について理解し、生命を尊重する態度を育てる
課題	どうすれば学校のメダカを増やすことができるのだろうか？
活用場面	学校の池のメダカを増やす

「学校のメダカを増やしたい！」という児童の思いから主体的な課題を設定します。

課題を解決するために必要な知識として、メダカの飼育の仕方や雄雌の違いについて理解し、観察の技能を身に付けていきます。さらに、予想や仮説を立てながら解決に向けて試行錯誤を繰り返すことで、動物の生命を尊重する態度を育むとともに、知識を習得することにつながります。

中学校3年 外国語科

単元名「相手に分かりやすく説明しよう」

目標	相手により分かりやすく伝えるように内容や伝え方を工夫する
課題	どうすれば ALT に日本語独自の表現を分かりやすく伝えられるだろうか？
活用場面	ALT に日本語表現を分かりやすく伝える

「結構です」などの日本語独特の表現を分かりやすく ALT に伝えるという活用場面を2回設定します。

1回目の発表での ALT の反応をもとに振り返り、2回目に向けて、場面の状況に合わせて「どの英語を使えば意図が正しく伝わるか」を吟味し、表現を工夫します。ジェスチャー等の工夫にとどまらず、学んだ英語を活用して意図を伝える経験を通して、相手を意識してコミュニケーションを取ろうとする姿勢を育むとともに、既習表現の確実な定着につながります。

授業をブラッシュアップ！

根拠をもって考え、発言する授業へ

理由や根拠を明確に表現することを目指す

～(理由)だから〇〇だと思う。

この資料に～(根拠)とあるから、きっと〇〇だと思う。



自分の考えの理由や根拠を、自分の言葉で表現することは、思考を促し、解釈を深めることにつながります。

考えていることを言語化することは、子どもたちにとって簡単ではないかもしれません。だからこそ、教師は、適切な発問によって思考を促していきましょう。そして、自分で考えを表現しようとする姿勢を認め、価値付ける声かけを意識していきましょう。

【発問例】

「なぜ、そう考えたの？」

「どの資料からそう考えたの？」

視点をもって話し合う場面を設ける

(～の視点で考えると)
私は〇〇だと思うけれど、
みんなはどう思う？

私は～だと思うけれど、
みんなの意見を聞いている
と、〇〇なのかもと思う。



話し合いを行う際は、「何のために話し合うのか」という目的と、「何に注目して話し合うのか」という視点を明確に示すことが大切です。

また、対話を通して友達の考えに触れることは、自分の考えを見直し、思考を深めることにつながります。単に意見を発表し合うだけの場にならないように、子どもたちが友達の意見につなげて自分の考えを述べるができるように声かけしていきましょう。

【発問例】

「～(視点)について近くの人と話し合いましょう。」

「友達の考えを聞いて、どう考えましたか？」

授業事例

発表するだけで終わらない！考えを深める対話を

小学校2年 算数科 単元名「長さ」

大きさの違うものを基準に長さを測るとうまく比べられない、という疑問をみんなで考えます。

魚の長さをブロックや自分の消しゴムいくつ分で測る活動を行った後、「なぜ魚の長さ比べに失敗したのか」と全体に問い、ペアの友達に説明し合う時間を作ります。

- A:「消しゴムの大きさが違ったからかな。」
B:「消しゴムの大きさが同じだったらよかった。」
A:「消しゴムはぴったり大きさが合うのはないよ。」
B:「ブロックはみんな同じ大きさだから比べられたよ。」
A:「でもお母さんはブロックの大きさ知らないよ。」

活動を通して気付いたことを言葉にして「伝える」場面を取り入れることで、みんなが同じものを使って比べる大切さを深く理解することができます。

中学校1年 家庭科

題材名「責任ある消費者になるために」

商品の情報をもとに、Tさんの家のテレビを選択します。自分で考えた後に、グループや全体で理由や根拠をもとに意見交流を行います。どんな視点で情報を捉えているのか、選択の根拠は何か、対話の視点を示し、自分の意見と比較させます。

- A:「①のテレビは、値段も安いしTさんの条件にあっていると思う。」
B:「値段は少し高いけれど、保証期間が長いから③の方がいいんじゃない？」
C:「テレビは何年も使うものだし、環境のことを考えると省エネ機能もあった方がいいと思う。」

対話を通して自分とは違う新たな視点に気付くことができ、消費者として責任ある選択ができているか自分を振り返る機会となります。

令和 8 年度 教科に関する調査結果の成果と課題

◎ 自分の考えを表現する力に一定の成果

小学校の国語（経験と結び付けて書く）や算数（表から根拠を見つけて書く）の記述問題で正答率が全国平均を上回り、自分の考えを表現する力に成果が見られました。先生方が思考力の育成を重視し、授業改善に取り組んできた成果と言えます。

▲ 知識の本質的な理解と定着に課題

漢字や公式といった基礎的な知識・技能の定着に課題が見られました。全教科において、単なる方法の暗記にとどまらない、「なぜそうなるのか」という深い理解へとつなぐ指導が求められます。基礎を定着させる時間をしっかり確保するとともに、系統性を意識したスパイラルな指導によって、意味や概念を確実に身に付けさせることが大切です。

▲ 知識・技能を様々な場面で活用する力に課題

知識・技能を別の問題や日常生活の場面で引き出して活用することに課題が見られました。身に付けた知識・技能は、実際に使うことで理解が深まり、生きて働くものとなります。実生活に関連する課題の解決など、学んだことを使う場面を意図的に位置付けた授業デザインが重要です。

▲ 多くの情報や条件を結び付け、考えを整理して表現することに課題

複数の資料から目的に応じて必要な情報を見つけたり、条件に応じて自分の言葉で表現したりすることに課題が見られました。資料を正確に読み取ることは、全教科の学びを支える土台であり、解釈したことを相手や目的に応じて表現することは、他者との合意形成を図る力へとつながります。読み取りから表現に至る各段階でつまづきを支援しつつ、子ども自身が根拠を明確にして自らの考えを相手に分かりやすく伝える力を育てることが大切です。

令和 8 年度全国学力・学習状況調査報告書（香川県教育センターHP 内）

○ 報告記事

- 1 調査結果を明日の授業へ！
～各校の検証・改善サイクルの構築に向けて～
- 2 特集
(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実装に向けて
(2) 子ども主体の ICT 活用に向けて

質問調査結果を分析し、授業改善の視点を提案

○ 調査結果データ集

- I 調査結果（概論）
- II 教科に関する調査結果
- III 質問調査結果一覧
(児童生徒質問調査・学校質問調査)

香川と全国の結果を比較できるようデータを整理



<https://www.kagawa-edu.jp/educ01/section/research/research#frame-1202>

香川県教育委員会「令和 8 年度学校教育実践の手引」

香川県の重点項目や主体的・対話的で深い学びの実装に向けた各教科の具体的な授業改善等について紹介しています。

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/17868/2026tebiki.pdf>



国立教育政策研究所

全国学力・学習状況調査について、その結果や報告書、調査問題、授業アイデア例などが公開されています。

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



令和8年9月

KEC 香川県教育センター
Kagawa Prefectural Education Center